

芦安音頭 3年ぶり披露

小中運動会で

住民も参加、地域一体に

南アルプス市の芦安小で開かれた芦安小中合同の「芦安ふれあい運動会」で、地域に伝わる「芦安音頭」が3年ぶりに披露された。今年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う規制が緩和され、地域住民も運動会に参加。児童生徒と住民とが一体となって踊った。

〈穴山菜津美〉



すき美記
み菜就
原山本
杉穴山

運動会は、これまで地域住民らも参加するイベントだったが、新型コロナウイルス感染症拡大の

影響で、一昨年、昨年は保護者のみの出席に制限されていた。今年は住民の参加が可能に。参加者が全員で楽しめるよう、芦安音頭がプログラムに取り入れられた。



住民と共に芦安音頭を踊る児童

＝南アルプス・芦安小

影響で、一昨年、昨年は保護者のみの出席に制限されていた。今年は住民の参加が可能に。参加者が全員で楽しめるよう、芦安音頭がプログラムに取り入れられた。

「芦安音頭は昭和30年代から地域住民に親しまれ、芦安新

影響で、一昨年、昨年は保護者のみの出席に制限されていた。今年は住民の参加が可能に。参加者が全員で楽しめるよう、芦安音頭がプログラムに取り入れられた。

緑やまぶき祭や運動会などさまざまなイベントで披露されてきた。3年ぶりの運動会で「復活」を前に、芦安音頭を知る住民や「芦安小中学校学校応援団」のメンバーが児童生徒や保護者に踊り方を教える練習会を開き、準備を進めてきた。

17日に開かれた運動会では、児童生徒27人や保護者、教職員、地域住民が輪になって、曲に合わせて芦安音頭を披露。踊りが終わると、会場からは大きな拍手が起こった。6年生の金川小次郎君は「上手に踊ることができた。

みんなと一緒に踊り、芦安音頭の良さを感じた」と感想。踊りを見た伊東洋子さん(80)は「中学生だった頃に作られた芦安音頭を若い世代に踊ってもらいうれしい。地域に伝わる踊りを引き継いでいってほしい」と話していた。